

# チャレンジいばらき



食がまんなかのみんなの居場所 ハレとケ



いばらき CONNECT



きょうだい児支援 はぐっど!



ひぬま流域クリーン作戦

## 特集

### みんなで楽しく支え合うカラフルな子育て

- ▶ いばらき CONNECT ▶ 社会活動デビューセミナー&交流会 ▶ ひぬま流域クリーン作戦 ▶ LINE 講座
- ▶ ネットワーカー活動推進大会 ▶ 大子町ネットワーカー協議会 ▶ 団体会員を訪ねて

# いばらきCONNECT

令和7年7月26日 水戸三の丸ホテル 参加人数36名(会場参加30名・オンライン6名)

茨城県内外から分野や地域を越えて、ボランティア活動に取り組む団体が集まり、それぞれの活動の情報交換をする交流会を開催しました。

いばらきCONNECT2025「ピッチ&交流会」を開催しました。参加者全員による自己紹介の後、希望者7名が自身の活動を簡潔に紹介する「3分間ピッチ」を行いました。ピッチでは、スライドを用いて、外国籍の子どもの就学支援や市の賑わいづくりプラン、自身の仕事をきっかけに指導を始めたシニア向けキックボクシング教室など、様々な活動の紹介がありました。参加者からは、「いろいろな団体の方と意見交換を行うことが出来て良かった」「自身の今後の活動の参考にしたい」との声がありました。



《3分間ピッチ参加者の紹介内容》

## 社会に出る前に知ってほしい"働く"の現実

長池 涼太さん

## フレンズサポーターの活動紹介

フレンズサポーター 代表 山本 桂子さん

## 再生と共創のまちづくりプラン ～つながりと賑わいが生まれる地域へ～

石下プロジェクト 代表 鈴木 千彰さん

## 教育支援の活動紹介

特定非営利活動法人 教員支援ネットワーク T-KNIT 代表理事 塩畑 貴志さん

## シニアキックボクシングで元気とつながりを!! 現役の介護福祉士が教えるキックボクシング教室

kickboxing FITNESS CLUB T 代表 赤尾杉 武士さん

## ～若い世代の居場所支援紹介～

小美玉市社会福祉協議会 長谷川 凜人さん

## For Everyone Study・体験活動紹介

For Everyone Study所属 大上 拓也さん





令和7年8月23日 茨城県三の丸庁舎（交流サルーンいばらき）

# 社会活動デビューセミナー&交流会

## 第1回 持続可能なローカルビジネスの始め方

Guest

株式会社第一プログレス  
代表取締役社長 TURNSプロデューサー 堀口 正裕氏



県内で地域の困りごとの解決やコミュニティづくりなど、社会の新しい力になってみたいと考えている方に向けて開催しています。

第1回セミナーでは、堀口氏から、第三者への事業承継事案を例に、事業をスタートアップさせる前に『自分自身の想い』を棚卸することの大切さ、事業計画に完成はないこと、補助金申請にあたっての事業リスクマネジメントの重要性など、ご自身の経験も織り交ぜながら、分かり易くお話していただきました。参加者からは「事業承継のためのスキーム」や「事業のこだわりや個性を出すタイミング」など具体的な質問もあり、参加者の活動に対し、堀口氏から寄り添ったアドバイスをしていただきました。また、第2回セミナー「稼ぐ図書館、稼ぐ公民館から地域変革を始める」は、9月27日（土）に実施しました。



## これからのデビューセミナー&交流会

第3回

### 実践的な地域活動の始め方 ～アワード受賞者プレゼン～

開催日▶令和7年10月25日【セミナー 13:00～14:30/交流会 14:45～16:00】

Guest

For Everyone Study 代表 植竹 智央氏  
特定非営利活動法人ソワンアンドソワレ 理事長 中島 沙都美氏

第4回

### 社会課題を見つけ問いを立てビジネスを始める

開催日▶令和7年12月6日【セミナー 10:00～11:30/交流会 11:45～13:00】

Guest

有限会社モーハウス 代表取締役 光畑 由佳氏

社会活動デビューセミナーについてはコチラ▶





活動紹介  
動画



特集

みんなで  
楽しく支えあう

カラフル



## きょうだい児支援 はぐっど!【阿見町】



障がい児と同様に支援が必要な“きょうだい児”のために、2025年より阿見町で活動。 代表 田中 倫子さん

### 活動を始めたきっかけを 教えてください。

私自身、障がいを持つ子どもの親で、そのきょうだいたちの気持ちをどう汲み取るのがベストなのか日頃から考えていた時に、教育系の大学に通う学生から、大阪府のNPO法人「しぶたね」が、全国規模できょうだい児※支援の活動をされていることを教えてもらい、同じ障がい児がいる保護者の知り合い3名とその研修に参加しました。研修では、障がいを持つ子どものきょうだい児の事例やその子どもたちの気持ちなどを一つずつ丁寧に教えてもらい、この支援の重要性を感じました。それをきっかけに、障がいを持つ子のきょうだい児支援の活動を始めました。

※きょうだい児とは障がいや病気を持つ子のそばで育つきょうだいのこと。近年、支援の必要性が高まってきている。

### 持続的な活動のために 大切にしていることは?

阿見町から助成金事業として資金面のサポートを受けたり、町の広報紙やSNSで活動を紹介してもらうなどの協力を得ています。現在のスタッフは、知人に声をかけて集まりましたが、将来的に参加者が増えてきたら、町民からも広くスタッフを募って活動を続けたいです。立ち上げたばかりなので、活動をどう進めていくのかなど、まだまだ模索中です。これから、色々な課題もあると思いますが、よりよい活動につなげていければと考えています。

### 参加者に 配慮していることは?

大人が無理に悩みを聞き出したり相談に乗ったりするのではなく、参加者が声をかけあって、明るく楽しい雰囲気の中で、居心地の良い場所になるよう心がけています。初回の活動では、集団ゲームをいくつかやっているうちに自然と盛り上がり、初対面で「ねえねえ」と呼び合う仲になるぐらい楽しく過ごすことができました。参加者からは、「思ったより緊張しなかった」「和やかにできて良かった」という感想を聞けたので、まずは良いスタートを切ることができました。

### 今後チャレンジしたいことは 何ですか?

きょうだい児という言葉自体、まだまだ世の中に認知されていないのが現状です。今まで支える側だと思っていたら、実は自分も支援を受けることができる。その意識を広めることが、まずは大事だと感じています。そのためには、障がいや病気を抱える方がいる施設などとも連携して、支援が行き届きにくいきょうだい児への関心が高まるよう、支援の輪を広げていきたいです。また、現在は保護者が主体となって進めている活動を、将来的にはきょうだい児自身が、企画運営をして進められるようになればと思います。



# な子育て

子どもが成長する中で求められる支援や体験はさまざまで、その違いはまるでカラフルなパレットのようです。今回は、障がいを持つ子のきょうだいへの支援に取り組む団体「はぐっど!」や食が中心の居場所づくりに取り組む「食がまんなかのみんなの居場所 ハレとケ」をご紹介します。



## 食がまんなかのみんなの居場所 ハレとケ【坂東市】

2022年より坂東市で、子どもも大人も安心して集える食の体験を通じた地域密着の居場所づくりを運営。 代表 滝本 可南さん

### 居場所づくりのテーマに“食”を選んだ理由は？

私が“食”の大切さを感じたきっかけは、自身の子育てです。食を大事にできる人に育ってほしいという想いに、食べることが好きということプラスした結果、子ども時代の『育てる』『調理する』『みんなで食べる』などの体験を通じた、食が中心の居場所づくりが始まりました。地元農家の協力を得て、春はよもぎを摘んでかき揚げにしたり、夏はトウモロコシを収穫したりと、季節を感じながら活動しています。今では、「地元では出来ない体験を子どもにさせたい」と口コミが広がり、茨城県外からも参加があります。

### 持続的な活動のために大切にしていることは？

何よりも、自分が楽しめる範囲で活動することです。自分の子どもに色々な体験をさせたいという気持ちから始めた活動が、気づけばたくさんの方が遊びに来てくれる居場所へと成長していました。大変と思う時もありますが、やり方や気持ちを切り替えて前向きに活動しています。自分自身の子育てを優先して、無理に背伸びをせず、しんどさを溜め込まないで切り替える。これが、活動を継続するために大切なことと考えています。

### 参加者とのつながりにはどんな特徴がありますか？

スタッフを置かず企画や準備をひとりでもやることもあり、参加された方が出来ることを自然に手伝ってくれる形が生まれています。例えば、リピーターの方が初参加者の方へ積極的に声かけなどしてくれるため、助かっています。また、参加者が、自分の子どもだけでなく、参加している子どもたち全員をみんなで見守るというスタイルが成り立っています。核家族での子育てが大変な時代だからこそ、保護者の方には、ここに来ただけでもゆったりした気持ちで、子どもを見守り合っていたらと思います。

### 今後チャレンジしたいことは何ですか？

中高生と小学生が関わり合える居場所を作ること、行政と連携しながら子どもの遊び場（プレイパーク）づくりを始めることです。子どもの成長は想像以上に早いので、そのスピードに追い付けるよう、個人の活動と行政への働きかけの両輪で進めたいと思います。「我が子にこんな体験をさせたい」という気持ちから活動が始まり、それをオープンにした結果、大勢の方から共感をいただいています。多くの子どもたちに、外遊びの楽しさを伝えるプレイパークは、ぜひ実現させたいです。





令和7年6月8日 茨城町涸沼自然公園

# ひぬま流域クリーン作戦

涸沼湖畔の環境美化と自然散策を目的に、クリーンアップひぬまネットワークとチャレンジいばらき県民運動が主催し、ラムサール条約登録湿地ひぬまの会、環境保全茨城県民会議、(公財)茨城県開発公社いこいの村涸沼、イオンタウン(株)イオンタウン水戸南から協賛をいただきました。

地域住民、企業、団体、涸沼流域市町のネットワーク(チャレンジかさまネットワーク連絡協議会、大洗町ネットワーク等連絡協議会、茨城町ネットワーク等連絡協議会)など約250名の参加者が、涸沼自然公園を起点とした3コースに分かれて、沿道などに放棄されたごみを回収しました。参加者からは、「今回は、雨天中止となってしまったが、今回は参加できて良かった。参加者間で涸沼の話ができる貴重な機会だと改めて実感した」との声がありました。



地域活動に活かす

令和7年7月23日 常陸大宮ショッピングセンター ピサー口

第1回

## LINE講座

～LINEグループを活用しよう～

IT活用グループの企画運営でLINE講座を開催しました。地域活動に携わる方々が参加し、LINEグループを活用した情報共有や円滑なコミュニケーションの方法を学びました。

講師のFor Everyone Study 代表 植竹 智央氏からは、「LINEの便利な機能を楽しみながら覚えて、地域活動に役立ててもらいたい」と話がありました。参加者からは「LINEの便利さを実感できた」「今日学んだことを地域に取り入れていきたい」といった声が寄せられ、今後の活動に活かせる学びの場となりました。

《次回のLINE講座》参加費無料/定員20名(先着順)

日時 ▶ 令和7年10月29日 14:00～16:00

場所 ▶ つくば市役所コミュニティ棟1階

ぜひ、ご参加ください ▶ お申込みはコチラ ▶



IT活用  
グループ  
とは

IT活用グループは、県民活動推進員で構成され、地域活動やボランティアに役立つICT活用法を学べる講座等を企画・開催することで、地域のつながりや活動の幅を広げるお手伝いをしています。



## 地域のできることを話し合う貴重な機会となりました。

県内各地からネットワーカーや市町村職員等が参加し、ネットワーカー代表者会議も併せて同日に開催。地域のためにできることを話し合う貴重な機会となりました。

新規委嘱者は、幡谷理事長から委嘱状を受け取り、「引き受けた以上は頑張りたい」「幅広く様々な分野で活動したい」などと意気込みを述べました。また、筑西市ネットワーカー協議会、任意団体みんなの制服リユースUNICLE(いばらきチャレンジアワード「支え合い」2024で奨励賞を受賞)の活動発表のほか、弓野典子氏による笑いヨガの講演・体験もあり、会場は終始活気に包まれていました。



## 大子町ネットワーカー協議会 活動報告



平成20年に設立。現在9名で、会員相互の連絡を図りながら活動しています。

大子町ネットワーカー協議会は、町内で開催される奥久慈大子まつりで、地域の人たちのネットワークづくりや住みよい地域づくりの普及啓発活動を、積極的に進めています。また、通称もみじ寺として親しまれている永源寺に至る、押川沿いの遊歩道の美化活動を、秋の紅葉シーズンに合わせて年2回実施しています。美化活動をしていると、観光で訪れた方や地元の方から「ありがとうございます」「きれいになりますね」と声をかけていただくことも多く、活動の励みになっています。これからも、大子町を訪れる方々に「来てよかった」と感じていただけるよう、できることをできる範囲で続けていきたいと思います。大子町にお越しの際は、赤や黄色に染まるもみじ寺の紅葉とともに、美化活動によってより洗練された押川沿いの遊歩道にも、ぜひご注目ください。

会長 藤田 則子さん

チャレンジいばらき県民運動

ネットワーカー募集中!

地域活動員(ネットワーカー)は、居住する地域において、地域の人たちのネットワークづくりや住み良い地域づくりに取り組んでおり、現在、約600名の方が県内各地で活躍しています。皆さんも、一緒に活動しませんか?

詳しくは、お住まいの市町村へお問い合わせください。

ネットワーカーについてはコチラ



# 団体会員を訪ねて Vol.11

## 茨城県ニュースポーツ協会

茨城県水戸市  
千波町2509-9

事業内容

ニュースポーツ体験教室、講習会、  
大会・研修会等の開催及び指導者の派遣



カンタン・ボッチャやモルックといったニュースポーツを通じて、初心者でも気軽に参加できる工夫を重ね、世代を越えた交流や地域づくりへとつなげています。



会長 介川 文雄さん

ニュースポーツと競技スポーツとの大きな違いは、「勝敗にこだわることより楽しむこと」にあります。協会の事業や委託イベント等で、カンタン・ボッチャやモルックといったニュースポーツを体験する機会を提供しています。参加する方の多くは初心者のため、公式ルールやプレー方法の簡略版を考案し、スキルや年齢、性別に関係なく、気軽に楽しんでもらえることを一番に考えて実施しています。誰でも楽しめるので、健康増進はもとより、地域コミュニティや多世代交流の場として活かすことができるのも特徴です。より多くの世代が参加できるよう、平日中心だった活動を土日にも開催する取り組みも始めました。小学校高学年以上になると、塾や部活が優先されて参加が難しくなりがちですが、生涯を通じて親子でもできるのがニュースポーツの魅力なので、この世代の子どもたちにもこそ、ぜひ参加してほしいです。今後も、我々の取り組みを知っていただけるよう、地域イベントでの体験を働きかけたり、県内市町村や諸団体の要請に応えられるよう指導者を育成していきます。

## INFORMATION

いばらきチャレンジアワード「支え合い2025」[観覧無料]

ファイナリストプレゼンテーション・表彰式《観覧のお知らせ》

福祉、環境、青少年育成、防犯・防災、地域づくり、コミュニティづくり、SDGsの推進など、様々な分野における社会的課題の解決に向けた、「社会貢献性」「独自性」「継続性」及び「発展性」の高いプランを表彰し、社会活動に向けてのチャレンジ精神を醸成するとともに、非営利の社会貢献活動を促進することを目的として本アワードを開催します。一次審査を通過したファイナリストが、プレゼンテーションを行います。皆様、お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。観覧についての申込方法や詳細については、ホームページをご覧ください。



日時 ▶ 令和7年11月22日(日) 12:45～

場所 ▶ 茨城県立図書館 2階 視聴覚ホール

観覧の申込方法や詳細についてはコチラ ▶



お問い合わせ

チャレンジいばらき県民運動 広報紙

〔発行〕チャレンジいばらき県民運動 令和7年10月1日発行  
〔編集〕県民活動推進員(魅力発見・発信グループ)



チャレンジいばらき県民運動

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎2階

Tel.029-224-8120 Fax.029-233-0030

ホームページ ▶ <https://challenge-ibaraki.jp> E-mail ▶ [info@challenge-ibaraki.jp](mailto:info@challenge-ibaraki.jp)

